

平成19年第2回 対馬市議会定例会



平成19年第2回対馬市議会定例会が、6月15日に開かれ、歳入歳出総額にそれぞれ3億2千50万円追加し、予算総額291億1千万円とした平成19年度対馬市一般会計補正予算(第2号)をはじめ、32件の議案が上程されました。提出された議案は、すべて原案のとおり可決され、26日に閉会しました。

永尾一二三副市長が退職

永尾一二三副市長が6月12日付で退職しました。同氏は、平成16年5月、対馬市の収入役に就任し、平成17年7月からは助役(平成19年4月からは副市長)を務めました。現在、市には副市長が不在となっていますが、新たに「統括監」を設けて、事務の執行を行います。

人事異動

7月1日付異動

氏名後の()内は旧所属

【市長部局】

統括監・昇任(市民生活部、観光商工部、農林水産部、建設部担当) 清水達明(建設部長) 統括監・昇任(北部振興(峰・上原・上対馬支所)担当) 大浦義光(議会議務局長) 統括監・昇任(総務部、政策部、福祉部、保健部担当) 松原敬行(政策部長)

《政策部》 部長・昇任 阿比留博文(市民生活部次長兼事務課長) 《市民生活部》 次長兼市民課長・昇任 橋本政次(同課長) 事務課長 中村敏明(同課主幹) 《福祉部》 保護課 主任 糸瀬博隆

(同部福祉課) 《観光商工部》 次長兼商工課長・昇任 武田延幸(同課長) 《建設部》 部長・昇任 川上司(同部次長兼建設課長)

次長兼建設課長 小島近(同部北部建設事務所長) 北部建設事務所長 松村利宏(同事務所主幹)

《豊玉支所》 【地域振興課】 主任 糸瀬真作(峰支所同課) 《峰支所》 【佐賀出張所】 主事(峰学校給食共同調理場併任) 畑島洋一(佐賀出張所)

【議会事務局】 局長・昇任 永留徳光(同次長) 次長 昇任 橋清治(福祉部保護課) 6月30日付退職 小嶋弘美(市民生活部税務課)

対馬南警察署の新警備艇「つしま」が就役



対馬南警察署の新しい警備艇「つしま」の就役式が、5月30日、美津島町雑知のグリインピア海浜公園で行われました。

新「つしま」は、昭和57年から25年間活躍してきた旧「つしま」と比べ大型化し、全長が約23m、重さは約40トン。速力も約2倍(40ノット)となっています。最新鋭の設備を搭載し、同署の水上警察活動の要として今後の活躍が期待されます。式典には、警察関係者の他、行政関係者らが来賓として招かれ、テープカット、試乗航海が行われました。

約700人があじさいロードをウォーキング

あじさい祭 (上県町佐護)

6月10日、上県町佐護の湊浜シーランドステージで恒例のあじさい祭が開催されました。

晴天に恵まれた当日、会場には市内各地から約700人の参加者が集まり、海沿いに延びるあじさいロードをウォーキングしながら、沿道に鮮やかに咲き乱れる数千本のあじさいを楽しんでいました。例年と比べ花の咲き具合はよかったです。例年と比べ花の咲き具合はよかったです。例年と比べ花の咲き具合はよかったです。

会場では、保育園児によるお遊戯や、歌謡ショー、対州馬の乗馬体験、もち投げなどの楽しいイベントが行われ、観客は楽しそうに初夏の一日を過ごしていました。



競技は紙飛行機に変更

第5回 パラグライディング対馬大会



あじさい祭と並行して実施されているパラグライディング対馬大会が今年も6月9日・10日の2日間開かれました。

大会には、大分県玖珠町や長崎県及び韓国釜山市で活動している愛好家に加え、地元スカイクラブ対馬のメンバーの合わせて約40名がエントリーしましたが、両日ともに10m近い強風が吹き、危険性があるため競技は中止。代わりに体育館で紙飛行機を使用しての競技（飛行機を飛ばし、標的への近さを競う）が行われました。

賞品は本大会と変わらないため、選手達も研究を重ね真剣な表情でよく飛ばす紙飛行機の製作に取り組んでいました。

フライトができず残念な結果となった大会でしたが、選手達は久しぶりに顔を合わせた他のクラブのメンバーと交流会等で楽しい時間を過ごし、来年の再会とフライトを誓っていました。



紙飛行機を作る選手たち

出来によって飛行性能が左右されるだけに、製作にも余念がありませんでした。

青年海外協力隊員として西アフリカのベナン共和国へ赴任する上県町女連出身の市山高太郎さん(24歳)が、出国を前に松村市長を表敬訪問しました。派遣期間は平成19年6月からの2年間で、同国のアラダ市役所を拠点に、市民や子ども達へのスポーツ指導、イベントの立案などの活動を行います。大学で社会福祉を学び、サークルでは実際にスポーツイベントを行うなどの活動を実践。その時の先生が青年海外協力隊のOBだったことがきっかけで、自分もなりたいたいと決意したそうです。「現地では、まだマラソンや組体操くらいしかスポーツが普及していないのが現状。今までの知識や経験を生かし、現地の人のニーズを把握した上で、役に立てるよう活動を行いたい」と目を輝かせていました。



市山高太郎さん(上県町女連) 青年海外協力隊員としてベナンへ出発